



タボス

- ・富士通のテストツールをご紹介
(富士通株式会社)
- ・ベリサーブのご紹介
(株式会社ベリサーブ 中部事業部 中部営業課)
- ・JSTQB の活動紹介
(JSTQB (NPO 法人 ASTER))
- ・楽天トラベルの QA プロセス
(残田 晋／楽天株式会社 楽天トラベルサービス
開発部 Quality Assurance グループ マネージャー)
- ・スマートフォン評価自動化ツール S A T T のご紹介
(Sky 株式会社)
- ・診えていますか？炎上の兆候
(柏原 一雄)
- ・『触れてみて 初めて気づくこともある！？その製品の 品質特性』
～ 魅力品質勉強会 ユーザビリティテスト実践編2 ～
(良知 敦／魅力品質勉強会)
- ・「データ分析勉強会」のご紹介
(河野 智弘／(ソフトウェア技術者のための) データ分析勉強会)
- ・バグ票で Go!! ～ RIMGEN で改善、バグ票の伝える力～
(岡内 佑樹、近美 克行／バグ票ワーストプラクティス
検討プロジェクト)
- ・テストについて勉強する機会、不足していませんか？
～ CT3 / TEF 東海セミナーのご案内～
(やの よしを／JaSST 東海)
- ・テストのプロセス改善を知ってみよう！
～ TPI NEXT 勉強会を通じて～
(TEF 東海 TPI NEXT 勉強会)

<タイトル>

富士通のテストツールをご紹介

<発表者>

富士通株式会社

<概要>

富士通のテストツールをご紹介します。
ノベリティも用意しておりますので、
お気軽にお越しください。

ポスター会場での過ごし方

- ① 穴があくまでポスターを見る。
- ② 発表者に議論を吹っ掛ける。
- ③ 熱い戦いが繰り広げられる。
- ④ 大人の友情が芽生える。
- ⑤ そして伝説が始まる。

今回は豪華特典（？）付きポスターラリーを開催予定です。乞うご期待！

<タイトル> ベリサーブのご紹介

<発表者>
株式会社ベリサーブ 中部事業部 中部営業課

<概要>

市場ニーズに応じ、様々な製品の高機能化・高性能化が進む中、これを構成するソフトウェアも複雑化・規模拡大の一途をたどっています。しかしその一方で、更なるコスト低減、高品質化が求められている最中、ソフト開発現場では、QCD改善を目指し様々な施策を検討・実施する上で、ソフトウェアへの「第三者検証の重要性」が高まっています。私どもベリサーブは、各企業様でのQCD改善に寄与すべく、700社以上の企業様での業務実績と、学識経験者を交えた研究活動を通じ、研鑽した弊社検証技術を元に、様々なサービスをご提供致しております。今回のポスターセッションでは、各企業様での課題をお伺いし、課題解決に向けて、共に考える場にしたいと考えています。

<タイトル> JSTQB の活動紹介

<発表者>
JSTQB (NPO 法人 ASTER)

<概要>

本セッションでは、ソフトウェアテストの国際的な資格認定スキームである ISTQB (International Software Testing Qualifications Board) の日本での加盟団体である JSTQB の活動をご紹介します。特にテスト技術者認定試験の内容について、Foundation Level、Advanced Level それぞれの概要および開催予定を紹介します。また、ISTQB のパートナー認定制度についてもご紹介する予定です。

<タイトル>
楽天トラベルの QA プロセス

<発表者>
**残田 晋／楽天株式会社 楽天トラベルサービス
開発部 Quality Assurance グループ マネージャー**

<概要>
**年間 200 以上のリリースを行う楽天トラベルの
QA 実施プロセスに関する発表を行います。
どこから QA が参加し、どのように実施をしているのか。
また、テスト自動化の取り組みに関する
発表させていただきます。**

<タイトル>
スマートフォン評価自働化ツール SATT のご紹介

<発表者>
Sky 株式会社

<概要>
**テストの自働化を進めていこうとした際に課題となることが多いのが
テストコードの作成です。これまでのアプローチとしては、実際のテスト操作を
キャプチャしその操作をコード化するか、もしくはテストツールの API を
理解しテストコードをコーディングするアプローチが主流となっていましたが、
テストの精度を高めるためにはテストコードと向き合う必要がありました。
ここをどうにか簡易化したいと考え、Sky が開発したツールが SATT です。
評価対象のアプリケーションの画面やコントロールを登録すれば、
テスト項目を作成するだけでテストコードが生成される仕組みとなっており、
第三者検証業務の自働化がやりやすくなっています。
Sky の評価検証業務で使用しております
SATT の特徴をご紹介致します。**

<タイトル> 診えていますか？炎上の兆候

<発表者> 柏原 一雄

<概要>

プロジェクトが"炎上"した経験はあるだろうか？

多くのプロジェクトマネージャや開発者が、「納期間際にあってもテストが消化しきれず、毎日不具合が発見され続け、いつになったら開発が終わるのかわからない。」という状況を経験しているのではないだろうか？
計画した品質のソフトを遅れずにリリースするためには、早く炎上の兆候を掴み、手を打つことが重要となる。病気と同じで、手遅れになる前に兆候が掴めれば、炎上を防ぐ／炎上から抜け出す可能性が生まれる。

「ソフトウェア品質技術者のためのデータ分析勉強会（2015年度第6回）」と「ソフトウェアテストシンポジウム2014東海（SIG）」でワークショップを実施し、業務や立場の異なる約30名により、炎上の兆候とその兆候を検知するメトリクスを洗い出した。

このワークショップで作成された成果物を整理し、「炎上の症状の関連図」と「炎上の兆候を掴む問診票」を作成した。更に、現場でメトリクスの計測実験を行い、計測のしやすさ・有効性を評価した。

<タイトル> 『触れてみて初めて気づくこともある！？その製品の品質特性』 ～魅力品質勉強会 ユーザビリティテスト実践編2～

<発表者> 良知 敦／魅力品質勉強会

<概要>

「魅力的な製品を作るために、どのような品質特性に着目して評価したらよいか」をテーマに掲げ、ユーザビリティテストについて勉強をしてきた『魅力品質勉強会』から、今回ご紹介いたしますのは『ユーザビリティテスト実践編2！』です。

昨年は、テキスト「ユーザビリティテスティング（黒須正明著）」の輪講を終え、その集大成として、某社組込み製品を対象としたユーザビリティテストを実際に行いました。その後、Webサービスのユーザビリティテストに挑戦しました。

今回のポスターセッションでは、私たちが実際に行ったユーザビリティテストの様子をご紹介すると共に、ユーザビリティテストが製品開発に何をもたらしてくれるのかを皆様にお伝えできればと思います。

たくさんの新たな気づきと、笑い（！？）が得られたユーザビリティテストの、その魅力を少しでも感じていただければ幸いです。

＜タイトル＞

「データ分析勉強会」のご紹介

河野 智弘／（ソフトウェア技術者のための）データ分析勉強会

＜概要＞

（ソフトウェア技術者のための）データ分析勉強会は、「ソフトウェアメトリクス」に興味、関心がある有志が集まり、2011年より月1回のペースで開催してきている。

勉強会は、「主体的にソフトウェアメトリクスを学ぶ場」そして「有志とのコミュニケーションの場」として輪講担当者を中心として、座学と演習で構成されている。また、毎回の勉強会終了後は「アフター」と称した参加者同士での事例紹介やフリーディスカッションを実施している。近年は、"コンテンツの充実"と"参加者の増加"による相乗効果で、勉強会そのものが学ぶ場、コミュニケーションの場として成長してきている。今回は、データ分析勉強会における活動内容や成果、そして今後の予定について紹介する。

（ソフトウェア品質技術者のための）データ分析勉強会
<https://sites.google.com/site/kantometrics/home>

＜タイトル＞

バグ票で Go!! ~ RIMGEN で改善、バグ票の伝える力 ~

岡内 佑樹、近美 克行／バグ票ワーストプラクティス
検討プロジェクト

＜概要＞

私たちはバグレポート（以下「バグ票」）の活用や改善方法を有志で研究しているコミュニティです。

ソフトウェアの開発現場ではコミュニケーションを支える主要なツールの1つとしてバグ票が使われており、バグ票はソフトウェア開発現場で最も多くの関係者が目にする文書です。私たちは、JaSST等ソフトウェアテストやソフトウェアテストに関連するイベントなどから、参加者にご協力頂くアンケートの実施によりバグ票が「うまく活用できない事例」を収集してきました。

今回は、私たちの活動を紹介するとともに、書籍「Bug Advocacy」で述べられている「RIMGEN」の考え方を利用したバグ票の改善を共有したいと思います。あまりにも身近、それゆえに顧みられる機会の少ないバグ票ですが、バグ票を通してコミュニケーションの課題を意識することで、コミュニケーション品質、ひいてはソフトウェア品質を考えてみませんか？

<タイトル>

テストについて勉強する機会、
不足していませんか？

～ CT3 ／ TEF 東海セミナーのご案内 ～

<発表者>

やの よしを／JaSST 東海

<概要>

東海地域で細々と続けられている謎の勉強会、それが
CT3 (Casual Test Talk in Tokai) ／ TEF 東海セミナーです。

今回は、昨年度と同様にこれまでの活動を紹介するとともに、
来年から立ち上げる予定である
TEF 東海が主催する勉強会の告知 ML のメンバーを募集します。

「勉強会に参加したいけど、どうすればよいか分からん・・・」
そんな悩めるエンジニアをお待ちしております。

<タイトル>

テストのプロセス改善を知ってみよう！
～ TPI NEXT 勉強会を通じて～

<発表者>

TEF 東海 TPI NEXT 勉強会

<概要>

今年の JaSST 東京 2016 のチュートリアルで TPI NEXT をはじめて知り、
春から TPI NEXT® の本を読みあわせをしています。

始めたきっかけは、自分がうまくテストができているのか？
次になにをするとよいのか？といったテストの自己診断が、
TPI NEXT のチェックをすれば、すぐにできると思ったからです。

当日のポスター発表では、勉強会の活動を通じて理解したことなどを
ご紹介できればとおもっています。

来ていただいた方に、少しでも TPI NEXT に興味を
持っていただければ、たいへんありがとうございます。